



国立大学法人 筑波大学
University of Tsukuba

報道関係各位

平成 25 年 11 月 1 日
筑波大学附属病院

つくばヒト組織バイオバンクセンター（THB）の設立について

この度、国立大学法人筑波大学附属病院は「つくばヒト組織バイオバンクセンター（THB）」を、平成 25 年 11 月 1 日に設立しましたので、お知らせいたします。
詳細は別紙の資料を参照願います。

《お問合せ先》

国立大学法人筑波大学附属病院
つくばヒト組織バイオバンクセンター
担当：竹内朋代

T E L : 029-853-3715

F A X : 029-853-3715

つくばヒト組織バイオバンクセンターの設立について

【事業内容】

手術や検査で採取した組織、血液等の試料で診断が済み、廃棄するものを患者から同意を得た上で臨床情報と連結して保存・管理して研究用に提供します。研究者からの利用申請に基づき、研究課題の審査を行い、承認後に試料・臨床情報を提供します。臨床情報は継続的に保管をして、必要に応じ情報を追加して提供することができます。

【背景】

バイオバンクは組織、細胞、血液、尿及びDNA等の生物試料、または臨床情報及び遺伝子解析データ等の情報を収集、管理して研究用に提供する設備や施設のことです。最近では、手術検体などの残余組織を積極的に研究利用する動きが見られ、バイオバンクの設置が国内外で進められています。しかし、国内では、ヒト試料の収集・管理は行っているものの実際に試料を外部機関へ提供しているバイオバンクは殆どありません。特に教育・研究機関である大学では、提供機関として機能しているバイオバンクは1つもありません。また、海外のバイオバンクから提供される試料は研究者が必要とする十分な臨床情報が付帯されていないため研究に利用しにくい状況です。

【必要性】

ヒトの疾患に対する病因・病態を解明するための研究や創薬研究等、臨床に繋がる基礎研究において、最も信頼性が高く、有効なデータを得るためには、ヒト由来の研究試料を使用することが不可欠です。また、世界的に動物実験の削減という観点からもその代替手段としてヒト試料のニーズが高まっています。一般的に研究者がヒト試料を使用する際には、試料提供機関との共同研究契約を締結します。これで試料の入手はできるものの研究成果の帰属に制限が生じ、結果として医薬品の開発や治療ガイドラインの決定が遅れることとなります。現在、このようなドラッグラグ、デバイスラグ解消のための研究推進が加速していますが、研究に欠かせない試料・情報を共同研究契約の制限無しに提供できるシステムがなく、早急な対応が必要となっています。

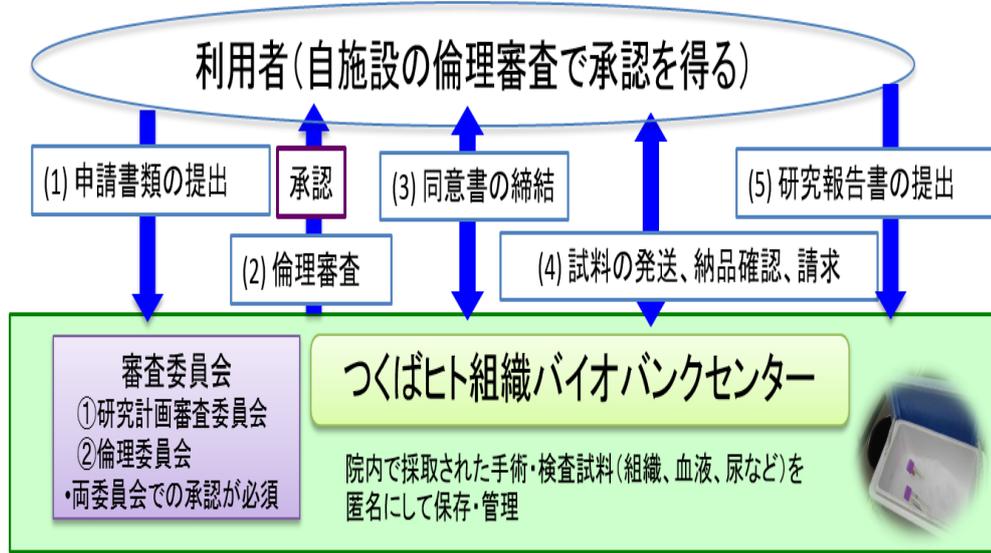
【効果】

前述のような社会からの必要性を踏まえて、筑波大学では、詳細な臨床情報を付帯したヒト試料を研究者に知的財産権を要求せずに提供する国内初のバイオバンクを設立しました。大学としては全国で初めてのヒト試料提供機関になります。つくばヒト組織バイオバンクセンターから研究に有用な豊富な臨床情報を付帯したヒト試料を提供し、研究が行われることで信頼性の高い研究成果が得られます。さらに知的財産権を試料使用者に帰属させる国内初のバイオバンクの運営は、医学・薬学研究を推進して先進医療の促進に貢献するものです。

【事業開始】

平成25年11月1日

つくばヒト組織バイオバンクセンター：試料・情報提供の流れ



つくばヒト組織バイオバンクとつくば国際戦略特区の関係

つくば地区の研究機関等で発足したライフサイエンス推進協議会で構築する生物試料に関する総合データベースにつくばヒト組織バイオバンクの試料(組織)データがリンクしており、特区の新規プロジェクトを支援している。

